

J T B グループ労働組合連合会 第 1 1 回震災復興支援活動レポート

J T B 九州労働組合

新田 喜久枝

日 時：2013年11月21日（木）～22日（金）

活動場所：福島県南相馬市小高（おだか）区

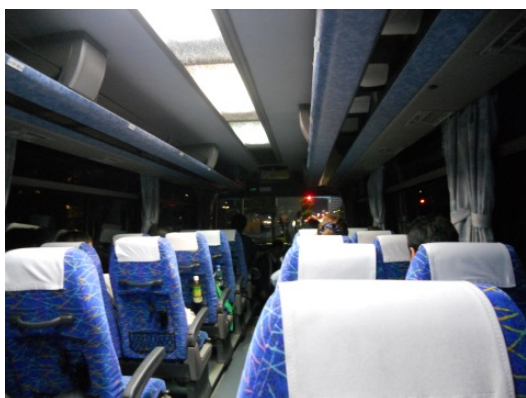
参加人数：14名

【はじめに】

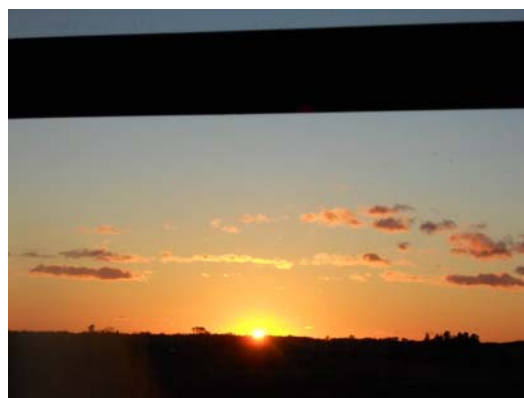
東日本大震災発生直後、日々報道される被災地の状況を、ただ見るしかできない自分がとてももどかしかったことを覚えています。当時、東北や関東の友人とやり取りする中、その内の数名と全く連絡が取れませんでした。他の友人の情報を頼りにし、災害用伝言板などを利用し、幸いにも全員無事が分かりましたが、やっと直接話せるようになった時、津波によって実家が流され、勤務先が流され、サイレンの度に避難しているなど、途切れ途切れの携帯の電波の中、みんな必死に現状を伝えてくれました。

「私にも今いる場所で何かできる事が無いか」と思い続け、今回やっと実現できました。J T B グループ労働組合連合会の一員として、第 1 1 回の震災復興支援活動に参加できた事を心から感謝しております。

【1日目】



仙台市内から約2時間かけて南相馬市へ



2日間とも日の出がとても印象的でした

今回2日間活動させて頂いた南相馬市小高区は、福島第一原発事故の放射能の影響で、避難指示解除準備区域となっており、未だ居住できない地域です。立派な家々が立ち並び、車も行き来しているにも関わらず、全ての家のカーテンが閉められ、歩く人も見当たらず、車窓から見た生活感の無い様子は、見れば見るほど異様な光景でした。

南相馬市ボランティア活動センターに到着し、その日の活動内容が割り当てられ、今回最初の活動は、廃棄物の搬出作業となりました。依頼者の方は当時造園業をされており、現在は他県に避難しているとお話して下さいました。活動場所のご自宅到着時には多くの大きな廃棄物が置かれていましたが、10名以上で一気に行ったことで、あっという間に搬出することができました。本当にこれだけの作業で良かったのかと思うくらいでしたが、帰りがけに見た依頼者の方の笑顔が、何だかとても嬉しかったです。



搬出した廃棄物



身長と変わらない背丈の物もありました

次の活動は、別の場所に移動し草刈りとなりました。ボランティアセンターに立ち寄り、必要な道具をお借りして、活動場所へ到着。目の前には手付かずの空き地がありました。このままの状態だと周辺への影響があるため、草刈りが必要とのことでした。草刈り機で刈られた草を「トン袋」という大きな袋に詰めるという単純作業でしたが、膨大な草の量のため、ひたすら全身を使つての作業となりました。



草だらけの手付かずの空き地が…



周りの住宅も見えるようになりました

夜は有志での懇親会があり、お一人お一人のお話を聞くことができました。初めて参加されている方も何度も参加されている方もそれぞれいらっしやり、今回このような機会があったからこそお会いできたと思うと、貴重な交流ができた事を嬉しく思いました。

【2日目】

2日目は和太鼓の練習場の草刈りでした。練習場へ向かう道も草で荒れ果て、午前中はその道の草刈りが中心でしたが、道は人が歩かないと無くなってしまふことを肌身で実感しました。和太鼓は練習の際大きな音がするため、山の上の広場を練習場として使用していたそうです。車が通りやすいように、練習場の傍の坂を舗装する予定だった2日前に震災が発生。使うはずだった資材が未だ置いたままとなっているのを見て、何気ない毎日が一瞬で一変してしまった様子を目の当たりにしました。



⇒



最初は奥があるのも分かりませんでした… 12月から練習再開予定だそうです！

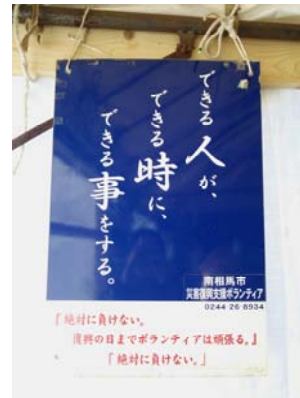


昼食でボランティアセンターへ戻った際、向かいにある小高区役所内の放射能測定器を目にしました。放射線量の知識が無く、福岡に戻り自宅で少し調べると、外で過ごすことには特に大きな問題の無い数値でした。今回の活動をきっかけに、風評だけに左右されず、正しい知識で正しい行動ができるようになりたいと思いました。

仙台空港へ向かう途中に立ち寄った入浴施設で、ご年配のご家族と一緒にになりました。東京で40年働き、その仕事を引退され、福島に新築したご自宅でゆっくり生活しようとした矢先に被災。「まさか自分が支援されることになるとは夢にも思わなかった」と何度もおっしゃられていました。このご家族も含め、今回の活動を通して多くの方のお話を直接伺い、改めて1日も早い復興を心から願いました。



お世話になったボランティアセンター



センター内にあった標語

【最後に】

初日到着後のオリエンテーションで、南相馬市ボランティア活動センターの松本センター長が「冬来りなば春遠からじ／冬は必ず春となる／3度目の冬をむかえますが、何度も冬を越えながら確実に復興に近付いていると信じています」とお話をされました。私達が今回行った活動は、様々ある膨大な復興支援活動のほんの一つだと思います。それでも目の前の一人の方の役に立てること、その一つ一つの積み重ねが復興に繋がると私も信じたいです。

また、懇親会の際に小川会長が「JTBグループ約14,000名の組合員全員が一度は参加したと言えるくらい、これからも継続的に支援活動を続けていきたい」とお話をされました。九州にいる私でもできることがあると、まずは私から周囲の皆さんに伝えていきたいと思います。

●これから参加をお考えの皆さんへ●

活動に参加することが決まり、初めての参加だったため、持参物の準備に戸惑いました。あくまでも今回の活動で感じたことですが、下記を参考にして下さると幸いです。

帽子：キャップを持参しました。日よけにもなり、髪も邪魔にならず便利でした。

軍手：草によっては、布目から手に刺さるため、ゴム手袋又は革手袋がおすすめです。

長靴：女性用長靴（鉄板入りセーフティソール）を見つけられず、ホームセンターで購入した安全靴で参加しました。場所によっては草の丈も長く、足場が悪いこともあるため、スニーカーはあまりおすすめできません。

ゴーグル：防塵メガネを持参しました。草をトン袋に詰める際、かなりの塵が出るため、非常に役立ちました。